



～潮風の中でたくましく～

全国学力学習状況調査

4月19日、6年生を対象に実施された令和4年度全国学力学習状況調査について報告します。8月に結果が返ってきましたので、職員研修として結果の分析、今後の取り組みを検討しました。本年度は国語、算数、理科の学習調査、質問紙調査が行われました。

1 学力調査結果 平均正答率

	国語	算数	理科
泊小学校	66	63	65
鳥取県	64	62	63
全国	65.6	63.2	63.3

- 国語、理科では、平均正答率、平均正答数ともに、県平均、全国平均を上回った。算数では、平均正答率、平均正答数ともに、県平均を上回ったが全国平均は下回った。

教科別 領域別 平均正答率の比較

国語

	話す聞く	書くこと	読むこと	言葉	漢字等
泊小学校	62.5	41.7	70.8	71.7	75.0
鳥取県	64.8	48.7	63.3	68.5	79.7
全国	66.2	48.5	66.6	69.0	77.9

算数

	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
泊小学校	77.8	52.2	43.8	80.6
鳥取県	69.6	62.3	47.5	68.0
全国	69.8	64.0	51.3	68.7

理科

	エネルギー	粒子	生命	地球
泊小学校	52.2	63.3	78.3	70.0
鳥取県	50.9	60.3	74.0	62.5
全国	51.6	60.4	75.0	64.6

- 領域別に見ると、国語では、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」(知識及び技能)「C読むこと」(思考力・判断力・表現力等)は、県平均、全国平均ともに上回ったが、「A話すこと・聞くこと」(思考力・判断力・表現力等)「B書くこと」(思考力・判断力・表現力等)は、県平均、全国平均ともに下回った。算数では、「A数と計算」「Dデータの活用」は、県平均、全国平均を大きく上回っているが、「B図形」「C変化と関係」は、大きく下回っている。理科では、すべてに領域において、県及び全国平均を上回っていた。

【課題の分析と教科における今後の取り組み】

- 国語では、問題文の意図を正確(必要なことを落とさずに)に捉えて答えることができなかった。また、3つの条件を満たした内容を記述しなければならない問題に無回答児童が3名もあった。「書くこと」の楽しさを味わわせるとともに、学年が上がるにつれて、条件に合わせて書くこと(○字以上○字以内、～の言葉を使って、～さんの立場で)に慣れさせていきたい。

- ・算数では、割合を使って「もとにする量」を求める記述問題で、割合を求める式をかけ算にしている誤答が多かった。確かめの式と混同している。答えを求めるのに適した式を用いるために、数量関係（もとにする量、くらべる量、割合）を図に表す力、図、式、言葉を使って表現する力を授業の中でつけていく必要がある。また、低学年から、必要な数値、矢印、言葉などを記入しながら自分の考えを表現する「ノートづくり」の指導及び、必要な情報を選択する力もつけていきい。
- ・図形の問題に対して、今後算数的活動を充実させ（作図の仕方を多様に考える）、作図の手順からどのような図形ができるのかについて判断したり、作図の仕方（手順）を筋道立てて端的に説明する力（図や表を示しながら算数用語を使って説明する力）をつけていく必要がある。
- ・理科では問題文にある条件を読んでいないための誤答があった。また、観察・実験する時に、視点をもたせ、結果について言語化したり、グラフを指さししながら説明したりする力をつけていくことが必要である。また、根拠が正しいか検討することも授業の中で取り上げていきたい。低学年から体験的な活動や実験を充実させること、生活体験を結びつけることを積み重ねたい。

## 2 児童質問紙調査結果（％）の分析と考察

### （1）生活習慣に関する項目について

◇「朝食を毎日食べていますか」

食べている（本校100、県86.7、全国84.9）…良好

◇「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」

よくしている（本校25.0、県26.9、全国27.5）

よくしている・ときどきしている（本校41.7、県71.3、全国71.1）…2極化

◇「1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」

「3時間以上」が16.7%あったが「1時間以上2時間未満」「30分以上1時間未満」が25.5%であった。また、「全くしない」が25.5%もあり、学習時間も2極化が見られる。読書時間についても「2時間以上」「1時間から2時間」している児童は33.4%いるが、全く読まない児童も25.5%ある。新聞については毎日ではないが、比較的読んでいるようである。読書習慣のない児童への新聞読書の推進を図りたい。

◇「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」

本校児童は「持っていない」児童がいない中で、「きちんと守っている」が41.1%で県（39%）全国（39.4%）を上回っている。「平均1日当たりどれくらいのゲームをしますか」に対しては、「1時間以上、2時間より少ない」児童が24.5%で一番多く、それより長い時間ゲームをしている児童は少なかった。児童や家庭での意識が改善している。

### （2）自分に関する項目について（挑戦心・達成感・規範意識・自己有用観等）

◇「自分にはよいところがあると思いますか。」

あてはまる（本校58.3、県38.9、全国39.4）県、全国を大きく上回っている。

どちらかという当てはまる」を合わせると、83.9%で「どちらかという当てはまらない」と答えた児童が16.7%あった。自己有用感を高める取り組みを進めていきたい。

◇「将来の夢や目標を持っていますか」

当てはまる、どちらかという当てはまる（本校75.0、県79.6、全国79.8）

県や全国をやや下回っている。

- ◇「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」  
当てはまる、どちらかという当てはまる合わせると（本校75.0%、県89.8%、全国87.2%）県、全国と比較して大きく下回っている。
- ◇「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」  
当てはまる、どちらかという当てはまる（本校91.7、県76.2、全国72.5）  
県、全国を大きく上回っている。上の項目の結果とはズレのある結果である。
- ◎キャリア教育を通して、児童が自分の長所や好きなことをしっかりと見つめ、自分の生き方について前向きに考える学習の充実を図る。そのために、学級活動（3）や道徳の時間の充実、キャリアカウンセリング、また、スモールステップでの目標を立て、その成果を大切に（一日一日のがんばりを振り返るなど）、自分の夢や目標の実現のために努力できる子を育てたい。

### （3）いじめに関する項目や学校生活に関する項目について

- ◇「人が困っているとき、進んで助けていますか」  
当てはまる＋どちらかという当てはまる（本校100、県87.5、全国88.9）
- ◇「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」  
当てはまる＋どちらかという当てはまる（本校100、県97.3、全国96.7）
- ◇「学校に行くのは楽しいと思いますか」  
当てはまる＋どちらかという当てはまる（本校91.7、県83.6、全国85.4）
- 人権教育を柱として引き続き取り組む。人権問題や身近なトラブルについて一人一人どう考えているのが話し合い、トラブルの解決の方法など指導していく。一人一人の思いを把握し、どんな理由があってもいじめは許されないこと、同時に、友達を多面的に理解することやトラブル解決の方法などを指導する必要がある。合わせて、児童の心が満たされるようないじめをしない心の環境づくり、仲間づくりを継続していくことが必要である。学校生活についての児童の思いをさらにくわしく分析していきたい。

### （4）ふるさと学習に関する項目について

- ◇「今住んでいる地域の行事に参加していますか」  
あてはまる、どちらかという当てはまる（本校66.6、県67.9、全国52.72）  
前年83.3%よりは減少傾向にある。
- ◇「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」  
あてはまる、どちらかという当てはまる（本校50.0、県50.6、全国51.3）
- コロナ禍のために、ゲストティーチャーを招いての学習ができなかったことが地域とのつながり弱めてしまった原因であると考えられる。総合的な学習での地域と関わる探究学習やふるさと学習をさらに取り入れ、地元食材給食の食育指導も加えるなどして、自分たちのふるさとを誇りに思えるよう今後も進めていきたい。

### （5）教科等の学習について

- ◇「国語の勉強は好きですか」  
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が58.4%で、県（60.8%）全国（59.2%）を下回っている。「国語の授業内容はよくわかりますか」「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」91.7%で、県（87.8%）全国（84.0%）を上回っている。
- ◇「算数は好きですか」  
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が66.6%で、県（62.3%）全国（62.5%）を上回っている。「算数の授業の内容はよく分かりますか」では、83.3%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答しており、

わかる授業が算数好きにつながっていると考えられる。

- ・「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」100%に対して、「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」58.3%は、県（67.2%）全国（69.3%）を下回る。既習学習をもとに問題を解決していく学習展開を実践し、数学的な見方・考え方を育てるとともに、考える楽しさ、解決する喜び、算数学習の楽しさが実感できる算数学習をめざしたい。

◇「学校でコンピュータなどのICT機器をどの程度使用していますか」

本校、県、全国ともに、「週3回以上」と回答している割合が多い。「月1回以上」と回答している割合も多い。「意見交換する場面でのICT機器の活用では、「週3回以上」33.3%、「自分の考えをまとめ、発表する場面でのICT機器の活用」では、「月1回未満」50.0%と回答した割合が多かった。しかし「学習の中でICT機器を使うのは勉強に役立つか」という問いに対して、「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」は100%だった。児童一人一人に配備されたタブレット端末を学習の中でさらに積極的に使っていく必要がある。

### 3 まとめと今後の取り組みについて

○学力向上・授業力向上

- ・授業づくりの基本（発問、板書、ノート指導、机間指導など）について、共通実践し、基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた取り組みを行う。
- ・授業のユニバーサルデザイン化、教材の簡素化、ねらいの明確化、的確な発問、思考の可視化を図り、「わかった・できた」が実感できる授業づくり（全員が1時間の中でねらいを達成できる授業）に努める。
- ・ICTの活用（教科の中でタブレットで解答、入力する機会を増やし、経験を積む。家庭学習での活用）
- ・人権教育を中心として、自分自らが課題を見つけ解決していこうとする意識や態度を育てるとともに、全児童を全教員で受け入れ、児童に肯定的な声かけを行い、自己肯定感、自己効力感、自己有用感を育てていく。

○家庭学習の定着と充実

- ・家庭学習に対する意識を高め、学力を支える基盤となる「計画性」「勤勉性」「粘り強く最後までやり抜く力」「継続して学習する力」を育てていく。
- ・「何のために宿題や自主学習に取り組むのか、それを通してどんな力が付くのか等」目的を明確にして児童に伝え、「やらされる」学習から「やりたい」と思える学習に児童の意識を変え、家庭学習の充実と主体的に学ぶ態度を育てる。
- ・取り組み方法や内容（自力でできる内容、量、支援）を具体的に指導し「自ら学ぶ学習習慣づくり」の定着を図る。
- ・引き続き、湯梨浜町家庭学習の手引き、家庭学習がんばりカードを活用し、家庭生活に戻った時でも、目標に向かって自己管理し学習に向かうことのできる力を育てる。保護者にも家庭学習に関する情報を積極的に発信していく。

○生活習慣の定着と改善

- ・生活アンケート（年3回）、基本的な生活習慣の定着を確立させる。（早寝、早起き、朝ごはん、メディア）自らの生活を見つめ、改善していけるよう、家庭や地域との連携、協力を図る。